

株式会社 UAH

獣医療におけるX線透視装置を使用した京都初の低侵襲医療の提供

X線透視装置の利用により、これまでできなかった循環器・整形・神経外科分野での低侵襲医療を、京都市内で初めてペットオーナーに提供することで、オンリーワンな動物病院として確立し、動物と安心して暮らせる街づくりに寄与する。

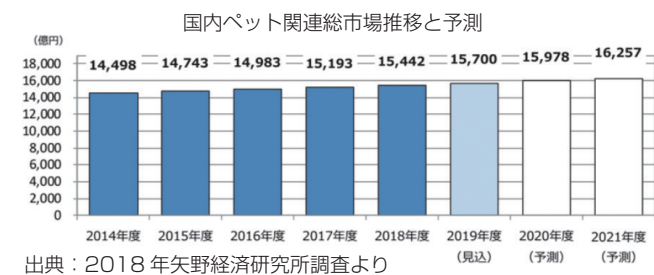
■ 代表者	平野 隆爾	■ TEL/FAX	TEL. 075-406-5211 / FAX. 075-406-5210
■ 設立	2015年4月1日	■ URL	https://www.ukyo-ah.com/
■ 資本金	10,000千円	■ E-mail	hirano.ryuji@me.com
■ 従業員数	28人（令和4年9月現在）	■ 得意分野	当院は、飼い主様と動物達がともに幸せに暮らしていけるように、ペットのかかりつけ医として、さらにその先の1.5次病院*として地域の動物達を助けるべく常に努力しています。最先端の医療設備と高い技術を駆使し、手術においても成功率100%に少しでも近づけるよう日々研鑽し、全力で命と向き合うことをお約束します。 ※かかりつけ医であり、高度な獣医療も提供する病院
■ 業種	技術サービス業（他に分類されないもの）		
■ 所在地	〒616-8181 京都府京都市右京区太秦京ノ道町12-2		

目的、取組のきっかけ

◆ 高度獣医療を求める飼い主の広がり

社会環境が激変する昨今、癒しを求めて犬や猫などを飼う、新規飼育者数は堅調に推移し（2021年犬397万頭、猫489万頭）、ペットはまさに“人生の伴侶”としての社会的認識が強くなっています。

それとともに近年獣医療の技術サービスが飛躍的に発展し、動物たちの寿命が延びるにつれ、人間同様に腫瘍や心臓病・腎臓病といった慢性疾患も増加してきました。ペットを家族の一員と想う飼い主は、これらの検査・治療においても、人間基準の質の高い獣医療を強く要望するようになりました。



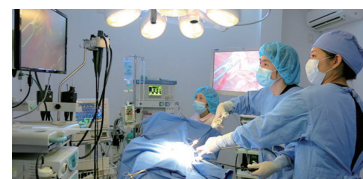
◆ 補助事業のきっかけ、目的

このように、ペットを伴侶と捉える飼い主は、手術・検査の際に伴う痛みや発熱、出血などの負担を、できるだけ減らす「低侵襲医療」を要望されます。

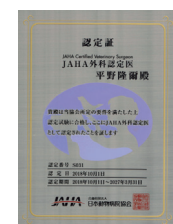
当院は、平成27年の開院より、消化管内視鏡、腹腔鏡手術などの低侵襲医療を行っており、最近では循環器・整形・神経外科分野の手術においても、低侵襲医療を求める要望が増えてきました。現在京都では、循環器などの低侵襲医療を行える設備システムを保有する施設がなく、それを望む飼い主は、大阪などの大規模動物病院に行く必要がありました。

幸い当院長は、(公社)日本動物病院協会が認定する数少ない「外科認定医」で、他施設において、同分野の低侵襲医療手術を既に実施しています。よって低侵襲医療機器を導入し、スタッフのスキルを育成すれば、同手術を実施することが可能であると判断し、京都において低侵襲医療を望

む飼い主の声に応えるため、本補助事業に取り組むことにしました。



身体に優しい腹腔鏡手術写真



日本動物病院協会認定証「外科認定医」

取組内容

◆ 循環器分野などの低侵襲医療の取り組み

まず院内に獣医師、獣医看護師による低侵襲医療チームを結成しました。チームで、技術・知識レベルを常にアップグレードしながら、獣医療における同分野での安全な低侵襲医療を提供していく体制の構築を目指しました。

そして同医療を可能にする設備については、島津製作所製外科用テレビシステム、ナカニシ製整形外科手術システムを選びました。そしてメーカーの指導の下、導入した2つの機器について、以下のテスト稼働を実施しました。

1. 外科用テレビシステム

当該テレビシステムでは、左右2つのディスプレイに、術野臓器の画像が表示されます。左の挿入前の画像にて、挿入部位をイメージした後に、右側のリアルタイムな描出動画を確認します。テストを繰り返し、各種デバイスを正確に挿入することで、X線透視下で循環器や神経などの患部を確認しながら正確かつ迅速な手術を行えるようになりました。



外科用テレビシステム

2. 整形外科手術システム

同手術システムを使用し、模擬骨にピンを用いて穴をあける、そして模擬骨を削るテストを実施し、正確に作業が行えることを確認しました。これまで



整形外科システム

企業概要

当院は平成27年、京都市右京区にて創業し、動物の総合健康管理施設として「右京動物病院HEALTH CARE CENTER」を運営しています。現在本院と市内に特徴ある3医院を運営し、動物と人のより良い共生社会の実現に向け、獣医療を含めた動物のトータルヘルスケアサービスを提供しています。



本院外観



手術室



トリミング室

主要取引先

京都市内外の犬、猫などのペットオーナー

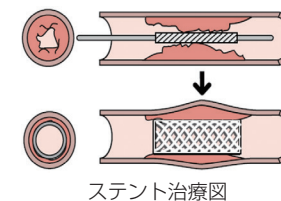
以上に骨折部位に対して、正確な穴あけが可能となり、整形分野での低侵襲医療を提供できるようになりました。

◆ 循環器などの分野の低侵襲医療治療の例

上記2つの設備システムを導入することで、これまでできなかった以下の治療・手術が可能になりました。

1. カテーテル治療

カテーテル治療とは、足の付け根などにある動脈から、直径2mm程度の細い管（カテーテル）を心臓の近くまで挿入し、バルーンやステント（金属製の網目状の筒）を留置することで狭くなっている冠状動脈を拡張する治療。



ステント治療図

2. 整形外科による骨折創外固定

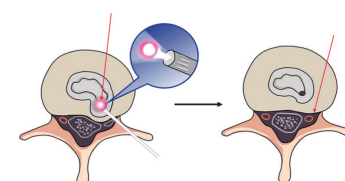
X線テレビシステムを使用し、透視下で身体の外側からピンやワイヤーで骨を固定し、骨の形を整えるなどの外科治療。



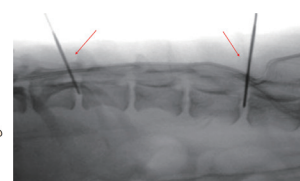
整形外科治療

3. 椎間板ヘルニア・レーザー手術

X線テレビシステムを使用し、皮膚を注射針で刺し、細いレーザーファイバーの先端を椎間板に送り込み、レーザーを照射する手術。



レーザーを照射する図



レーザーファイバーを差し込む写真

成果と今後の展開

◆ 補助事業の成果

本補助事業によって当院は、循環器・整形・神経外科分野の低侵襲医療を行うことのできる京都初の動物病院とな

主要サービス

ペット医療（地域医療、高度医療、予防医療、低侵襲医療、救急医療）、事前予防（健康診断（動物ドック）、トータルサービス（トリミング、ペットホテル、デイケアサービス、ペットグッズ販売、しつけ教室、各種セミナー（飼い主様向け・獣医療者向け））



外科手術



動物ドック



デイケアサービス

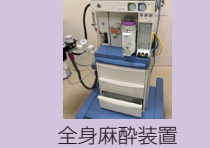
主な保有設備



CTスキャン装置



ICU（集中治療室）



全身麻酔装置

りました。同治療を利用するため、これまで大阪など遠方に行っていた京都の飼い主に、今後は地元で同分野の低侵襲医療を提供することができます。

実際、当院の循環器・整形・神経外科の低侵襲医療の手術件数は、2019年9件、2020年23件、2021年25件と順調に増加しています。

また、低侵襲医療チームを結成したことで、スタッフの技術・知識レベルの向上とともに、安全・安心な医療を提供していくチームワークが醸成される、という副次効果も得られました。



低侵襲医療チームのセミナー風景

◆ 今後の展開

平成27年10月、「京都市動物との共生に向けたマナー等に関する条例」が施行され、市民と行政が一体となって動物と住みやすい街づくりが進められています。

当院も、「動物にもペットオーナーにも優しい医療が“ここ”にあります」をキャッチコピーに、地域住民に愛される施設を目指し努力を続けています。

当院が得意とする高度医療（心臓外科手術や脳神経外科手術、腹腔鏡手術など）はどこの病院でも受けられるものではありません。そのような人同様の高度医療を動物たちに提供するためには、最新の医療設備だけでなく、そこに従事する者の知識や能力が必要となります。そこで、これらを最大限に引き出すためにグループ会社として、本年9月、「右京獣医療研修センター」をオープンしました。同センターには高度な医療機器やセミナールームを設置し、獣医療従事者の技術向上を図ります。

こうして常に優しく最高の医療を提供し、京都の動物たちの最後の砦となれるように、全スタッフ一同、常に成長を続けて動物たちの命を一つでも多く守ることができるよう精進していきたいと思っています。



右京獣医療研修センター